

## 『私の夢想・良寛さんと翔子』

金澤泰子

良寛さんと翔子は少し似ている、と私は思う。

良寛さんのカレイになる話や隠れんぼで朝まで隠れていたこと、お金が数えられないことなどは翔子と同じだ。そして地域社会の中に溶けあつて生きていた姿は、翔子が今商店街で繰り広げているバリアフリーの共同社会で一人で暮らしている姿と似ている。どんなに誉高い仕事が翔子に舞い降りても、翔子はその価値を知らずに、隣の犬が元気かどうか、大好きなおばあちゃんの痛いお膝は今日は大丈夫か、幼稚園に通う小さなお友達はちゃんと帰ってくるかしらと、そういうことしか心にならない。

その社会的無知さで繰り広げる弱き人に対する深い深い愛、損得の分らない翔子の無上の愛は良寛さんが具現していた大悲と同類のものなのかもしれないと思う。

しかし良寛さんのシンプルな中に優しさを秘める極北の書や、研ぎ澄まされた修行の果ての文章には、知的障害の翔子の書も文章もちつとも似てはいない。

知性の領域で良寛さんと翔子には大きな違いがある。

けれど多くの人の心を驚つかみにする二人は遠いようでも実に似たところがあると思える。良寛さんが評伝されている大愚や大悲と同じものが翔子にもあると感じる。社会的な地位を捨て厳しい修行の果てに捨て果てて村の共同社会で生きていた良寛さんと、生まれたときから名誉やお金のことを知らず、社会の組織の埒外で育ちながらも、商店街で楽しく生きる翔子と良寛さんはどこか同じ世界を持つ。優しく人の慈悲とだけ繋がる二人は、その過程こそ違うけれど、同源の人だ。

翔子がか弱き者を愛し、街に融合して「翔ちゃんとはこう云う娘なのだ」と納得してもらって生きている。

良寛さんも皆の合意のもとに村で生きてきたのでしよう。

翔子つて良寛さんの生まれ変わりかもしれない、と私は思う。

厳しい修行の果て大悟に至った良寛さんの次の命・来世は、徹底した社会への無知と喜びだけの翔子のような人に生まれ変わるだろう。良寛さんはもはや「知的に障害を持つ命」の翔子のように生まれついでの大愚と大悲に生まれるしか来世に生まれ変わる方法はなかったのではないかしら。

と私は夢想するのです。

今、時空を超えて良寛さんの書と翔子の書が並んでいる。